

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) グランダ鶴沿岸 新築工事	階数	地上2F
建設地	藤沢市鶴沿岸7丁目5744-1の一部外	構造	木造
用途地域	1低専・2中高専	平均居住人員	71 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2014年6月 予定	評価の実施日	2013年10月11日
敷地面積	2,631 m ²	作成者	三井ホーム株式会社
建築面積	1,311 m ²	確認日	2013年10月15日
延床面積	2,509 m ²	確認者	三井ホーム株式会社



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
高齢者の住宅施設として求められる機能性を備えるだけでなく、入居者にも近隣の住民からも親しんでもらえる様な木造建築ならではの暖かなイメージを大切に建築とした。		木造による大規模施設建築は、元来環境負荷がかかりにくく、CO ₂ 削減のためにも求められる有意義な建築工法である。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
共用部は高級感・重厚感を演出し、居室部は、暗い気分させないように華やかで遊び心をちりばめる等、高齢者が満足して暮らせるエリアとした。	バリアフリー対策を施し、ゆとりある居室面積を確保した。また各階にエレベーターを設け、入居者同士のコミュニケーションを育むとともに、各個室を遮音壁で区切り、プライバシーにも配慮した。	道路から離れたゆったりとしたインテリジェントな空間により、安心・安全な高齢者のアプローチを確保した。植樹帯・緑地・緑化ブロックを施し、緑による景観に配慮する共にバルコニー等に風の通り道を作り、温熱環境にも配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
日射や室内外の温度差による熱損失・熱取得の低減につとめ、冷暖房の使用エネルギー量を削減するために、窓部における省エネルギー性の高い複層ガラスを採用した。	木造(枠組壁工法)の特徴でもある、持続可能なカガの森林から供給される木材を構造材に用いて資源・環境へ配慮した。また節水型設備機器を積極的に採用し、省エネルギーへの配慮をした。	外観は、勾配屋根を持つ家型とし、住宅地である街並みに溶け込ませる工夫を凝らすとともに、全周にバルコニーを設置することで、隣家との視覚的なプライバシーの保護への効果と緑化対策への効果を狙った計画とした。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L:** Load (建築物の環境負荷), **LR:** Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), **BEE:** Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される